

Q16 学習発表会、道徳等の劇活動に関して

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

おしゃべり好きなA君。道徳の劇活動でもセリフをすぐに覚えて、みんなの前でしっかり言えたのですが、友達の言ったセリフに対して急に怒り出してしまいました。それは、劇がいじめをテーマにしたものであり、相手のお友達がA君に対して悪口を言うシーンだったからなのです。

自閉症の子どもは、役割遊びというものが非常に苦手です。相手と自分の役割を十分に理解して行動できないこともあります。また、人と一緒に一つのことをやり遂げようという意識も低いので、劇を成功させたいとか、劇の目的は何か十分理解して行動しているとは限らないのです。コミュニケーションについても、相手を意識して話しているとは思われないことがあります。また、相手の気持ちやその時の状況を理解して話すことも苦手です。ですから、相手の言ったことばをそのまま受け入れてしまい、「これは劇の中のセリフとして言っているんだ」とは考えずに、「自分が非難されたんだ」と受け取り、本気になって怒り出したり、泣いたりする場合も出てくるのです。

〈このような場合の支援 1〉

小学校5年生の知的障害を伴う自閉症の男児。学習発表会の劇の練習中に泣き出すことが多いのですが、本児が違う場面が出てきたり、相手のセリフの途中で自分のせりふを言い出したり、周りの子から手を引っぱられたり、きつく言われたりしている時に起こっているようです。このような場合、以下の支援の方法が考えられます。

- ① 身体との接触はできるだけ避ける。体にふれられることに対して過敏なところがある。それがきっかけとなりパニックを引き起こすことがある。
- ② 視覚的サインを取り入れる。本児の登場する場面では、色や人などのサインを決めておき合図にする。
- ③ 出番の順番表も活用する。登場する順番を書き、本人はそれを見ながら動く。
- ④ 物の受け渡しを用いる。セリフのやりとりは本児にとって苦手なことであり、タイミングをつかむのも難しい。小道具などのやりとりをして、それをきっかけとしてセリフを言うようにする。
- ⑤ 可能なら、せりふのない配役や、混乱がおきないようなポジションで劇に参加する構成を考える。

〈このような場合の支援 2〉

小学校4年生のアスペルガー症候群の男児。道徳の劇活動の発表の際に、セリフを言っている子に対して自分が非難されたと思い込み、激しい口調で言い返し泣きながら教室の外に出て行ってしまいました。このような場合、支援としては以下のような方法が考えられます。

- ⑥ 本児が落ち着いてから、なぜ出て行ってしまったのかを聞く（本児の感情を受け止める態度で聴くようにする）。
- ⑦ セリフとして言ったのであることを思い出させる（本児が思い当たるように話しかけるようにする）。
- ⑧ やりとりの少ない役を割り当てる。また、強い口調や大きな声で話しかけられると、怒られていると思う場合があるので、セリフの状況や本児の役割を検討する。
- ⑨ 劇活動を行う前に、絵の吹き出しを利用した台本等で、事前にどんな場面や会話なのか十分理解する。
- ⑩ 場面の状況や感情を読み取ることが難しいので、道徳の時間にねらっていることを具体的に教えた方がよい場合もある。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子